しまねの社会教育だより vol.7

中学校での読み聞かせ

小学校での読み聞かせ

県立図書館でのクリスマス会

公立図書館でのお話し会

幼稚園での読み聞かせ

公民館図書室の県立図書館書架コーナー

子育て支援センターでのお話し会

特集 「子ども読書県しまね」の実現に向けて

2011. 3月号

photo 地域における読書普及に関わる活動の様子（上） 社会教育主事講習<B>の様子（下）

発行:島根県立東部・西部社会教育研修センター

特集

「子ども読書県しまね」の実現に向けて

今日の社会は、国際化、情報化、少子高齢化等の急速な進展に伴い、めまぐるしく変化しています。このような急速な社会の変化は子どもたちの成長に様々な影響を与え、それに伴う問題も起こっています。そのような中、読書活動は豊かな感性や情操を育むとともに、子どもたちの知性を高め、現在や将来の生活を方向付けるなど、人間形成の上で重要です。また、読書を通じて身につけられる、読解力や思考力、表現力は、自ら課題を見つけ解決しようとする力の向上につながり、変化の激しい

読書活動の基本理念

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

子どもの読書活動の推進に関する法律第2条（基本理念）

子どもをとりまく現状は…

多様なメディアとの接触

多忙感（家庭でのゆとりの欠如）

家庭でのコミュニケーションの不足

基本的生活習慣の必要性

中央教育審議会（初等中等教育分科会教育課程部会）等での報告では、学習状況調査において「家で学校の宿題をする」「家の人と学校での出来事について話をする」「朝食を毎日食べる」**「読書が好き」**といった質問項目で、基本的な学習習慣や生活習慣の確立ができている子どもは、**学力調査において正答率が高い傾向にある**ことが分かっています。

<参考URL> http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/074/shiryo/attach/1295631.htm
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/08013006/003/023.htm

子どもが読書に親しむ環境づくりを!

「子ども読書県しまね」の目的

学校・家庭・地域による読書活動の推進

- 様々な知識や価値観
- 想像力 思考力
- 表現力 感性
- 感情や状況を読み取る力
- 情報を比べたり、分析したりする力
- 情報を整理し、まとめる力
- メディアを利用する力
- 様々な情報を集める力

→ 豊かな人間性 / 情報リテラシー（情報活用能力）

→ 「生きる力」の育成

「島根県子ども読書活動推進計画」より

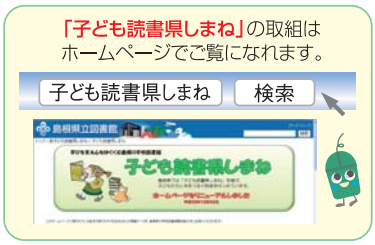
学校・家庭・地域における子ども読書活動と具体的施策

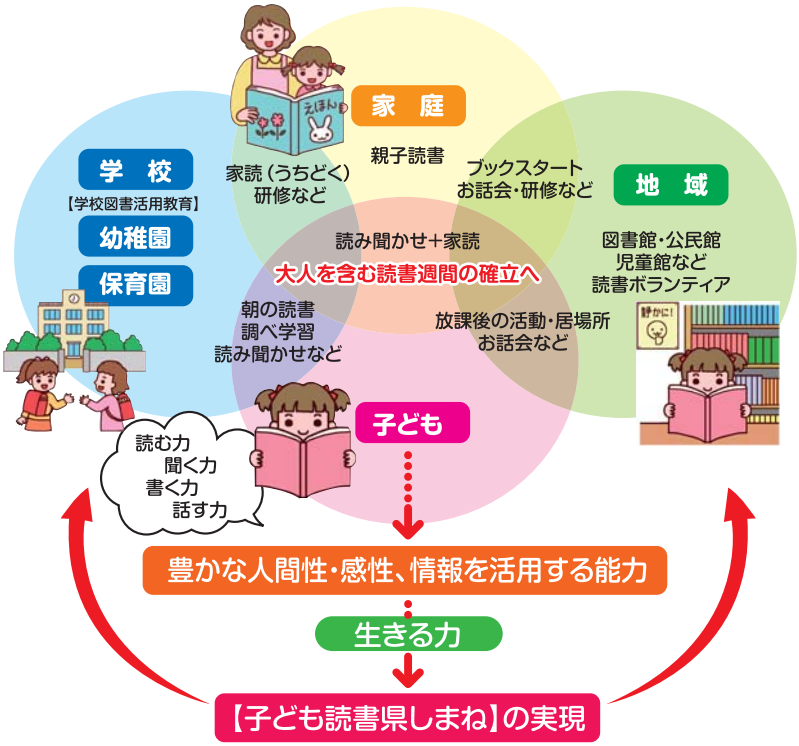
社会を生きていく上で大きな役割を果たします。さらに、読書ボランティアによる読み聞かせなどの取組は、地域の教育力を向上させることも期待されています。一方家庭においては、自然に読書に親しむような環境づくりが必要です。

以上のことから、島根県では平成21年度より「子ども読書県しまね」をキャッチフレーズに、幅広い県民運動として、読書活動の推進を図っています。

「子ども読書県しまね」とは

子どもの読書活動を推進していくためには、学校や公立図書館のほか、公民館・児童館、また家庭において読書ができる環境を整えていくことが重要です。そのため、子どもの読書活動に関わる人たちと連携協力して、すべての子どもがあらゆる機会と場所において、等しく読書活動ができる気運の醸成と環境整備をすすめていきます。





県立図書館の子ども読書活動推進（主な支援内容）

島根県の読書推進の中枢的機能

子どもの読書活動に必要な資料及び情報提供

学校・幼稚園・保育所・市町村図書館・子どもの読書活動を支える公民館などの団体、個人を支援します。

市町村への支援…幼児・児童読書普及事業

学校および学校図書館への支援

小・中学校に対し、団体貸出および小・中学校向け図書パッケージ※の整備

これまで同様、団体貸出を継続するとともに、各小・中学校に十分な図書が整備されるまでの臨時措置として、図書パッケージを整備し、支援を行います。

学校司書やボランティアの研修

※学校図書館活用教育で使用することを目的につくった基本図書

図書館から遠隔地にある地域への支援

市町村の図書館等を通じて貸出を行います。そのために、Web蔵書検索システムと相互貸借資料の搬送システムがあります。基本的に利用者・市町村の図書館とも送料負担の必要はありません。県内くまなく搬送します。

公民館・児童館への支援

公民館図書室への一括貸出や公民館や読書ボランティアに対する指導・助言・協力

県立図書館からの公民館・児童館等団体の方へワンポイントアドバイス

1.本は生き物

利用されない古い本は思い切って除架を!

2.ニーズを知る

利用者や地域のニーズを捉えた上で本や雑誌の配置を!

3.団体貸出の利用

県立図書館他主な図書館は団体貸出を実施しているので積極的に利用を!

4.図書館の役割と機能

児童館や公民館の職員の方々には図書館の役割と機能をぜひ知って欲しい。本が借りられるだけではない。何か困った時はいつでも相談を!

特集

今後求められる取組

子どもの読書活動を推進するためには、市町村において「子ども読書活動推進計画」を策定し、その計画に沿って読書活動を推進し、読書活動に対する気運の醸成をさらに図っていく必要があります。また、学校、公立図書館のほか、公民館、児童館といった子どもにとって身近な場所においてお話し会に参加したり、読書をしたりできる環境を整備していくことも重要です。

自治体で求められる取組

市町村

・「子ども読書活動推進計画」の作成

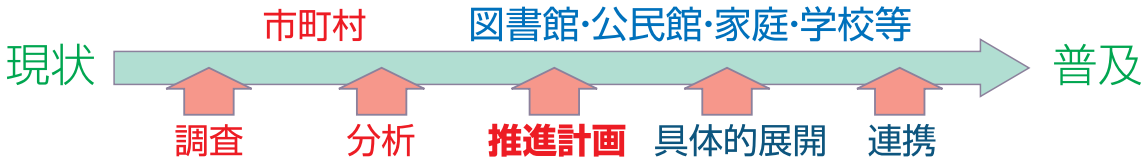
H22.12月末現在　市町村「子ども読書活動推進計画」策定率　28.6%（3市3町）

・公立図書館、ボランティアの調整役としての機能の充実

・ブックスタート事業の検討

※ブックスタートとは赤ちゃんとその保護者に絵本などが入ったブックスタート・パックを手渡し、絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる活動です。

地域の読書環境の把握と計画的な実践が必要です



市町村において、読書活動に関する調査・分析を行い、計画を作成することにより、読書普及活動の全体像が確認できます。

そして、計画に基づきそれぞれ活動に関わる人たちが自分の立ち位置を確認することにより、具体的な展開や施設ごとの連携へとつながっていきます。

各施設で求められる取組

図書館

・お話し会、読み聞かせの会の開催
・読書ボランティアへの支援や連携
・学校や公民館、児童館との連携模索
・親子読書活動の普及
・おすすめ本のリストの作成
・読書祭りの開催
・赤ちゃんコーナー、児童コーナー、ヤングアダルトコーナーの設置

公民館

・読み聞かせの会の開催
・育児教室の実施や子育てサークルとの連携
・学校図書館、公立図書館の状況把握→団体貸出の活用
・図書室・図書コーナーの環境整備
・地域の読書ボランティアの発掘

注目　社会教育課からのお願い

「読書ファミリー」募集中です！

家読（うちどく）のモデルとなってくださるご家庭はぜひ下記までご連絡ください。

〒690-8502
島根県松江市殿町1番地（県庁分庁舎）
島根県教育庁社会教育課
TEL 0852-22-5429
FAX 0852-22-6218
Mail shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

読書普及活動の具体例

県立図書館と市町村立図書館との連携

邑南町立図書館石見分館（矢上交流センター）では、**県立図書館（西部読書普及センター）**による市町村一括貸出を利用しており、旧石見地域の5公民館と協力して、県立図書館貸借図書コーナーを設置しています。これにより予算を抑えながら貸出図書を増やすことができ、また、石見分館では、週1回放課後の小学生を対象としたお話し会の開催や、石見分館を利用できない遠距離の小学生には、バスで送迎する図書館探検（図書利用案内、お話し会等）を実施しています。

図書館探検の様子

西部読書普及センターより配架

子育て支援センターの取組

宍道子育て支援センターは、松江市に8ヶ所ある支援センターの1つで、宍道公民館内にあります。ここでは、毎月1回、地域ボランティアによるお話し会が開催されており、家庭的な雰囲気の中で親子が楽しみながら参加しています。支援センターが公民館内にあることから、地域ボランティア探しや合同での活動等、様々な場面において公民館と連携しています。宍道公民館の図書室の児童書や育児書は、支援センターのスペースに移動されており、利用者が容易に借りられるよう工夫されています。

お話し会の様子

絵本などの書架コーナー

読書サークルによる読書普及活動

安来親子読書サークルは安来中央交流センターに登録されている団体です。昭和56年から活動を開始しており、30年の歴史があります。現在24名が登録し、市内各地で多岐にわたる読書普及に関わる活動をしています。安来市立図書館での月2回のお話し会をはじめ、市内保育所･幼稚園･小学校で朝の読み聞かせをしています。また拠点としている安来中央交流センターにおいて、年2回、七夕会やクリスマス会を開催し、人形劇や紙芝居などをして幅広く活動しています。七夕会やクリスマス会には多くの親子が毎回参加しています。

安来市立能義幼稚園での「人形劇」

安来市立図書館「おはなしのへや」

学校での読み聞かせ

掛合地区における読書ボランティアの歴史は、旧掛合町から雲南市への合併以前までさかのぼります。当初はそれぞれの地区の公民館が核となり、旧町内の5つの小学校で読み聞かせが行われていましたが、平成20年に掛合小学校に統合された後も、町内の公民館（現交流センター）と連携しながら、有志ボランティアが読み聞かせを行っています。平成21年度からは掛合中学校でも行われ、学校図書の貸出冊数が増えるなどの効果が表れています。また、隣接する三刀屋高校掛合分校の高校生も、月に1回程度掛合小学校へのボランティアに参加しており、双方にとって良い影響がでています。

小･中学校での読み聞かせ

清國祐二先生に聞く「社会教育関係者にはなぜ研修が必要なのか？

東部・西部社会教育研修センターは、県内の社会教育関係者のための人材養成機関として、新たなスタートを切りました。

この２ヶ年で約 3,000 名の方が研修・講座に参加され、研修での学びを御自身のスキルアップにつなげていただきました。その中で、参加された方からは、「（先生の講義を）すべて自分の立場に置き換えて考えることができ大変参考になった。こういう研修を待っていた!」（コーディネート術実践講座）や、「今回の経験の１つ１つが自分の肥やしになり、自信になっていくと思う。ぜひ現場で生かしたい。」（参加型学習実践講座）のように、前向きな感想を寄せていただくことが多くなってきました。

今回は、あらためて私たち社会教育関係者にとっての研修の必要性・意義を考えてみたいと思います。

■人の為に学ぶ

—“社会教育関係者にとっての研修”の特徴とは

社会教育関係者の大きな役割は、「地域住民の学習を多面的にサポート・支援すること」です。

もし、地域住民に「**あなたは学んでいる人から学びたいですか、それとも学んでいない人から学びたいですか?**」と尋ねたとすると、その答えは明らかでしょう。だとすれば、私たち社会教育関係者は、常に「**私は自分自身を磨いているだろうか?**」という問に向き合わなければなりません。

本来、研修とは自分自身の為（スキルアップ）に行うものです。しかし、**社会教育関係者にとっての研修は「人の為に学ぶ」ところに特徴がある**と私は考えています。

研修というと、県や市町村が行っている研修に参加することだけではなく、自己研修を行うことも含まれます。しかし、個人で目的を定めそのために学ぶことは、高いモチベーションや意識がなければ長続きはしません。この点で、短時間に効率的・効果的に学べる既存の研修に参加することは、大きな意味があります。

■ネットワーク・人脈の構築もできる

—研修参加には、他にどのような意義があるか

社会教育関係者にとって、「**ネットワークや人脈が資源・財産だ**」とよく言われます。日常業務の中でそれを作ろうとすると、例えば近隣施設との共同事業の実施等によって生み出すことも可能ですが、刺激にはどうしても欠けてしまいます。しかし、県レベルや広域の研修であれば、県内外の最新情報や他市町村の事例が学べるとともに、新たなネットワークづくりの可能性も出てきます。非日常の研修に意欲的に参加することで、さらに上を目指して欲しいものです。

近年実施されている研修には、講義だけでなく、参加型の手法を取り入れた演習のスタイルも多くなってきました。新しい知識の習得に加え、参加者同士の関係性を生かす相互学習が今後は主流となってくるでしょう。その意味を考えつつ、研修のスタイルそのものも身につけましょう。

研修で学んだことは、仕事に活かさなければなりません。研修を通してできたネットワークも、仕事に活かすことが大切です。「**成果は一人占めにしないで他者や地域に還元**

研修の必要性

～“社会教育の灯”を熾（おこ）すために～

海士町教育委員会地域共育課
課長　松前 一孝

これまでに基礎研修全5講座と親学プログラム体験講座を受講しました。町の社会教育（地域共育）の担当課長として、まずは自らが知識習得とスキルアップを図りたいと思ったのが受講のきっかけです。また、本課が一丸となって社会教育の振興を図る上で、今後とも課員に研修参加を促していきたいと考えていますが、その場合に私自身が研修の意義や必要性を理解しているからこそ、課員に適切な研修の受講勧奨を行うことができると考えています。

東部社会教育研修センターの講座に参加し、改めて社会教育の重要性を再確認できました。社会教育に関する内容だけでなく、講座の展開方法や様々な学習方法を体験をとおして学ぶことができたので、各種事業の実施にあたっては、習得した知識やノウハウの活用をより意識して行うようになりました。さっそく来年度に向け、参加型学習の手法を取り入れた事業企画を行っているところです。

社会教育は直接的・即時的な成果が見えにくいのですが、私は最終的には「人」（人材育成）が KEY になると思います。そういう意味においては、講座に参加し、意識もスキルも高まった私たちが“火種”となり、“社会教育の灯”を熾す役目を果たす必要があります。また、そうでなければ真に学習成果を還元できたとは言えません。現在、町では派遣社会教育主事の助言を得ながら、独自の研修会開催に向けた気運が高まっています。人と人、人と地域など様々な関係性が豊かな地域づくりの一翼を担える人材育成に努めて参ります。

今後とも機会を捉えて、さらに学び続けたいと考えています。

する」視点を常に意識しておく必要があります。

■社会教育のスキルを身につけ、センスを磨く

―研修によって身につく力とは

研修によって身につけられる力を大別すると２つ挙げられると思います。

１つめは、「**新しく身につける能力（知識・技術・方法・意識等）**」です。２つめは、「**これまでの自分自身の経験をふり返り、『意味づける力』**」です。

社会教育関係者には、ファシリテーター、コーディネーター、アドバイザー、カウンセラー、リサーチャーなど、状況に応じた多彩な機能が求められます。これらの機能は徐々に高めていくことが大切ですし、そのためにどのようなアクションを起こすかが大事になるのです。現状では、これらは武器（強み）となってくれますが、そう遠くない将来には当たり前になると考えてよいと思います。

研修で浸透しつつある参加型ですが、「どう参加するか」によってその成否は決まります。みなさんのチャレンジ精神に大いに期待しています。

また、新しい教育課題には、例えば、「全世代に向けたキャリア教育」や「新しい公共」などがあります。教育課題の多くは決して新しくなく、昔から社会教育の課題として取り組んできたものなのです。「なぜ今改めて課題となっているのか?」ということを、社会教育関係者に「意味づける」ことを願っています。社会教育の「フィルター」を通して世の中の動きを読み解いて欲しいのです。そうすれば「本質を見逃さない」社会教育施策や実践に結びつくはずです。少し高すぎる要求かも知れませんが、このイメージを是非共有しましょう。

研修の必要性について語る清國祐二先生

もうひとつ、**社会教育にはセンスが必要です**。センスを身につけるためには、日常的にセンサーを磨いておく必要があります。何を使って磨くのかといえば、**新しいスキルや高度なスキルなのです**。幸い、スキルは研修によって身につけることが可能です。そこから始めて、実践を通してセンスを磨き、**世の中の動きを「意味づける力」**を獲得していって欲しいと思っています。

■参加者が研修の質を高める

―最後に本誌読者へメッセージを

研修の成果が地域住民の学習や活動に役立つことで、地域住民との信頼関係が確立でき、結果的にその地域の力が高まるのであれば、社会教育関係者としてこれほどの喜びはないと思います。地域の生き生きとした姿こそ、みなさんのいちばんの報酬ではないでしょうか。

そのために研修の質を高める必要があります。その責任は「研修を必要とする側と企画する側」の双方にあります。まずは研修に参加し、そこで感じたことを企画者に届けましょう。リアクションこそが質の高い研修づくりの大事な一歩になるのです。研修づくりの当事者として、社会教育研修センターとよきパートナーシップをつくりましょう。

島根県の社会教育は全国的な注目を浴びています。その背景には、県内にレベルの高い社会教育関係者が多く存在していることがあげられます。島根県には贅沢にも「社会教育関係者のための人材養成機関」として、東部・西部の２箇所に社会教育研修センターがあります。みなさんの「社会教育魂」に一層の磨きをかけるために、もっと積極的にセンターの研修を活用しましょう。

清國 祐二（香川大学生涯学習教育研究センター長・教授）
大分県立別府青山高等学校で英語教諭として教鞭を執った後、島根大学教育学部社会教育学助教授、英国ランカスター大学客員研究員、香川大学生涯学習研究センター助教授等を経て、現職。日本生涯教育学会理事、中央教育審議会臨時委員。専門は「社会教育学」。
『社会教育の核心』(全日本社会教育連合会 2010) 等、著書多数。

※本原稿は、当センター社会教育主事が清國祐二先生にインタビューした内容をもとに再構成したものです。

貪欲に学び続けたい

浜田市立白砂公民館
主事　佐々木 瑞穂

これまでの私は、公民館業務の知識が全く無く、さらに白砂地区の住民の顔をほとんど知らないため、公民館で勤め始めるにあたって大きな不安がありました。そこで、公民館主事に必要な知識や能力を早く身につけ、役に立ちたいという思いから研修に参加するようになりました。

研修の必要性は感じていても、これまでの私とは無縁の場所に行くことに不安でおじけづきそうになったこともありました。しかし、同僚の先輩主事が、「行ってきんさい。」と背中を押し、帰ったら「お帰り。どうだった?」と温かく迎えてくれたことにより安心して参加ができました。また、三隅町は6公民館の連携が強く、研修に行く際にも誘い合ったり、乗り合わせたりしたので、知り合いがいるという心強さを感じることができました。

研修をとおして自分自身が変わったと思うのは、「公民館の役割」を頭において業務を行うようになったり、人と話す時に話し方を意識するようになったりしたことです。研修中に講師が話された言葉を思い返すことも度々あります。そして、一番の収穫は、人と関わることが断然楽しくなったことです。研修は、私にとって知識を学ぶだけでなく、自分探しの場であり、講座で知り合った人との再会の場でもあり、その全てが“楽しみ”になっています。

これからも研修に貪欲に参加し、いろいろなことを吸収していきたいです。今後の目標は、親学ファシリテーター養成講座を受講し、子育て中の母としての思いに共感しながら家庭教育支援をしていくことです。そして、数年後には、諸先輩のように社会教育主事資格の取得を目指し、三隅町内の主事パワーを倍増したいと思っています。

モデル公民館は“いま”

実証！「地域力」醸成プログラムモデル公民館

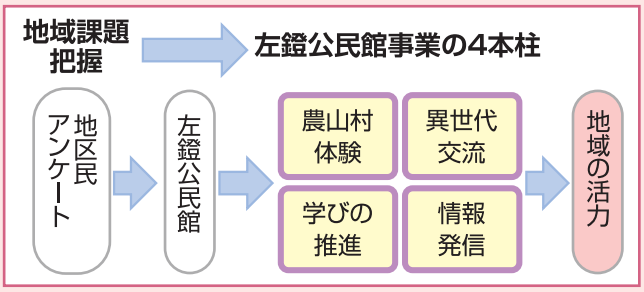
津和野町左鐙（さぶみ）公民館

【実証事業のテーマ】『親世代が中心となって地域を元気に』～青壮年と公民館の連携による過疎地からの挑戦～

左鐙地区は、人口およそ300人、高齢化率50%を超える地域です。左鐙の課題をみんなで掘り下げ、解決に取り組む左鐙公民館をレポートしました。

POINT1. 住民の思いを反映した公民館事業

少子高齢化が進む左鐙。「左鐙のこれからの地域づくりをどのように進めたら良いのか」という住民の思いをアンケートから探り、公民館事業の4本柱が立てられました。この4本柱を具現化するために、住民に企画段階から公民館事業に参加してもらうことにしました。この取組が地域の活力アップにつながっています。



POINT2. 住民を巻き込む公民館のし・か・け

公民館には、「運営委員会」を設置し、20 名の運営委員が、文化部･体育部･広報部に分かれ、事業を企画運営しています。

こんな中で、女性教室の軽スポーツサークルの親世代のメンバーが、地域課題に目を向け、男性を巻き込み「左鐙の将来を考える会」を立ち上げました。

この会が毎年企画する「夏休み親子サブミ体験」は、地域への愛着と地域リーダーを育て、将来の地域づくりを進める活動を目指しています。

また、公民館長･主事のコーディネートによって、他団体や高齢者の協力を得るなど、地域を巻き込んで活動しています。県内外からの参加者も多く、今では左鐙になくてはならない一大行事となっています。

この他に、公民館は、地元の専門的カメラ技術を持った住民に着目し、左鐙地域の活性化と PR を目的として、地元住民がスタッフ･キャストのオリジナルビデオドラマ作成にも取り組みました。「悪徳訪問販売撃退」や「伝統文化の継承」など、左鐙の地域課題をテーマにしたビデオは、地域住民の学習にも大いに活かされています。

このように、公民館は、住民主体の活動が展開できるように、組織作り、サポート体制、地域資源の活用等、地域を巻き込む仕掛けをし、左鐙地区の活性化に取り組んでいます。

オリジナルドラマ撮影風景

POINT3. 少子高齢化なんて何のその元気な地域“左鐙”へ

少子高齢化は大きな問題であり、解決にはまだ至っていません。しかし、左鐙地区には、地域のために自主的に活動ができるようになった団体、特技をもった個性ある人々がいます。公民館が核となり、これらの活動や人材をつなげていることで、左鐙は地域の活力を取り戻しつつあります。今後は、今まで培ってきた力を定住対策、山村留学等に結びつけ、「元気な地域“左鐙”」へ、さらなる挑戦を続けます。

左鐙公民館
〒699-5202 鹿足郡津和野町左鐙905
TEL　0856-76-0345

公民館が人づくり・地域づくりの中心拠点 ～未来のまちづくり～

本誌第5号より「**モデル公民館は“いま”**」と題して4館の取組を紹介しました。

施　設　名	テ　ー　マ
松江市朝日公民館	**「在住外国人と共生できるまちづくり」** ～外国人が安心して、生きがいを持って暮らせるために～
松江市来待地区公民館	**「豊かな田舎暮らし」の可能性を住民自身が再発見** ～定住対策に誇りと自信を～
益田市都茂公民館	**お父ちゃんの背中はでっかいぞ!** ～体験活動を通して、親の輪、親子の輪、地域づくりの輪づくり～
津和野町左鐙公民館	**親世代が中心となって地域を元気に** ～青壮年と公民館の連携による過疎地からの挑戦～

各公民館が核となり地域課題の掘り起こしを行い、住民参加による協働での取組が行われています。いずれもテーマの設定は地域の特性や状況によって吟味され、「地域の課題」を逆に「地域の魅力」として据え直し、価値を創出した取組がなされています。

地域社会をめぐる情勢は年々厳しくなってきています

今こそ社会教育の出番です!!

地 域 課 題

- 地域福祉
- 災害への備え
- 環境問題
- 老人や子どもを狙った犯罪防止
- 国　際　化
- 過　疎　化
- 地域社会全体での子育て

地域の特性を生かす　　住民を巻き込む

地域の価値を創出する

防犯、防災、介護、育児、国際化、過疎化など身近な生活の安全・安心を確保する上でコミュニティーの再生が喫緊の課題です。今こそ「地域課題」に目を向け、公民館が地域の中心拠点となって、協働による住民主体のまちづくりを積極的にすすめていくことこそ、「地域力」の醸成につながります。

小さな渦から大きな流れへ

公民館が中心となって

「地域力」醸成の気運を高め地域の元気を取り戻す

わがまちの社会教育の実践紹介

吉賀町

『社会教育に活力を!』～社会教育委員の奮闘日記～

吉賀町社会教育委員の会　議長　竹内　剛

町教育委員会より諮問されたテーマは、「吉賀町の『家庭教育の支援』についてのあり方・方向性」です。教育の原点である家庭教育を社会教育の視点からどのように支援するかという大きな課題に対し、日々の積極的な活動と社会教育への意識の向上が求められることになりました。

個々の委員の日常的な活動に加え、これまで年2、3回であった町社会教育委員の会を昨年度より年6回開催しています。毎回、家庭教育の支援に関する研修や体験活動に全委員が参加した後、委員の会を行っています。そのため研修や体験のふりかえり、意見交換から共通認識が生まれ、将来への展望が開かれるという効果があります。

親学プログラム体験講座の様子(1)

親学プログラム体験講座の様子(2)

具体例としてある回では、公民館・子育てサロン・読書ボランティアの方とともに「親学プログラム体験講座」に参加し、その場の状況・雰囲気を直接的に体感することができました。その後の委員の会では、西部社会教育研修センター、益田教育事務所の出席と助言により、親学研修の意義をより一層深めることになるとともに、委員の意識向上と意欲につながりました。

平成 23 年度の答申を目標に、自ら企画・立案し、能動的な発言と実践を積み重ね、考え・行動する社会教育委員になるべく奮闘中です。

奥出雲町

「大人になっても忘れない。大切なふるさとの山、鯛ノ巣山」

奥出雲町阿井公民館　館長　藤原 恒子

「伸びやかに鯛ノ巣山は仁多の富士」と仁多町イロハかるたにも謳われる、鯛ノ巣山（1026m）。阿井小学校の児童が毎日校庭から仰ぎ見るふるさとの名峰です。

毎年、秋には4年生から6年生が遠足として登山し、自然観察会が行われます。地元の人々で構成される“鯛ノ巣の自然を守る会”（事務局：公民館）の会員と保護者が子供たちと交流しつつ登り、下山後は守る会の方々による「きのこ汁」がふるまわれます。

自然観察員の説明に耳を傾ける小学生

公民館子ども活動では、登山道案内看板を手作りし、取り付けました。

ボランティアのおばあさんが作ったきのこ汁を楽しむ参加者

そうして成長した子どもたちが、みどりの日（5月4日）の山開き安全祈願祭には、友人を伴って参加し、新緑登山で誇らしげに山を案内する姿も見受けられます。

阿井公民館では、これからもふるさと阿井のすばらしさを伝える活動を続けたいと考えています。

県内派遣社会教育主事奮闘中!

元気や笑顔が私の喜び

松江市教育委員会　派遣社会教育主事　光森　智哉

「先生は、子どものところへ行ってしっかり教えるだわね。」

「花を植えることが生き甲斐だけど、最近、花を植えるところがなくていけんわ。学校でさせてもらって嬉しいわ。」

これは、ある中学校の花壇整備に出かけた際、学校支援ボランティアのお一人が、私をその学校の先生と間違えてかけられた言葉です。子どもたちへの愛情や学校・先生方に対する期待を感じ、そして何より、花作りを通じて生き生きと過ごしておられる姿に触れ大変心を打たれました。

松江市では、今年度から全15中学校区で「学校支援地域本部事業」を実施し、私がその担当をしています。その中で、まず大切にしたことは、「地域コーディネーター」との信頼関係の構築と連携です。地域本部を訪問して協議した回数は約170回、また「連絡会」を5回開催しました。この連絡会では、地域コーディネーター同士が互いに学校支援の様子を報告し合いノウハウを共有しますが、その熱気にはいつも圧倒されます。まさに「学校の応援団長」。この地域コーディネーターの働きが、学校支援の体制づくりと地域の教育力の向上の鍵を握っていると改めて実感しているところです。

地域コーディネーター連絡会
（グループ協議の1コマ）

そのような中で、ある中学校のロードレース大会の支援としての「見守り」の他、「走る」ボランティアの募集がありました。協議の中で、地域コーディネーターが、地域に多くのジョギング愛好者がおられることに着目したことがきっかけでした。スタート前に黙々とウォーミングアップし、レース中は子どもたちを励ましながら追い抜いていく「走る」ボランティア、それに食い下がろうと必死に走る中学生。その横で「頑張れ!!」と大声で励ます「見守り」ボランティア。地域の力を感じた瞬間でした。

「走る」ボランティアも
ロードレース大会を支えます

松江の学校支援地域本部事業の取組はまだ始まったばかりです。これが末永く続き、松江の子どもたち、先生方、そして地域の方の元気や笑顔につながればと思っています。それに微力ではありますが、少しでも役に立てれば、それが私の何よりの喜びです。

ご存じですか

インターネットで学べる「社会教育」

～国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「遠隔学習コンテンツ」～

国立教育政策研究所社会教育実践研究センターでは、「都道府県や市町村の教育委員会事務局、図書館職員等で社会教育行政を担当している皆様に広く活用していただく」ことを目的に、遠隔学習コンテンツを公開しています。

インターネットに接続できる環境があれば、どなたでも視聴することができます。

1　社会教育主事研修

(1) 社会教育法改正と今後の社会教育

①生涯学習の振興と社会教育行政　（山本恒夫）　19分間
②社会教育主事に求められる役割　（山本和人）　12分間
③新しい時代における社会教育計画・評価の在り方　（浅井経子）　21分間
④生涯学習の学習成果の活用　（佐久間章）　26分間
⑤家庭の教育力の向上　（大島まな）　23分間
⑥学校・家庭・地域の連携　（明石要一）　18分間

(2) 社会教育主事の専門性を高める資質・能力

①学習課題の把握と企画立案能力　（山本和人）　16分間
②コミュニケーションの能力　（清國祐二）　19分間
③調整者（コーディネーター）としての能力　（浅井経子）　23分間
④社会の変化に対応する「幅広い視野と探求心」　（熊谷愼之輔）　16分間

URL　http://www.nier.go.jp/jissen/index.htm

2　図書館関係職員研修　いずれも70分程度

(1) 図書館の意義と必要性　（薬袋秀樹）
(2) 図書館関係法規　（薬袋秀樹）
(3) 政策と経営　（鈴木善彦）
(4) 著作権と図書館　（南亮一）
(5) まちづくりと図書館　（片山善博）

お待ちしています！

5月から主催講座が始まります！

東部社会教育研修センター　出雲

6月

8日(水)　基礎研修　参加型学習入門
　　課題別研修　親学プログラム体験講座
15日(水)　基礎研修　コミュニケーション術入門
　　基礎研修　プレゼンテーション術入門
22日(水)　基礎研修　しまねの社会教育入門
　　基礎研修　社会教育施設入門

西部社会教育研修センター　浜田

5月

19日(木)　基礎研修　プレゼンテーション術入門
30日(月)▶31日(火)　大田市　専門研修　プログラム立案実践講座

6月

2日(木)　邑南町　課題別研修　親学プログラム体験講座
8日(水)　津和野町　基礎研修　しまねの社会教育入門
16日(木)　川本町　課題別研修　親学プログラム体験講座
28日(火)　吉賀町　基礎研修　社会教育施設入門

※詳しくは5月上旬にお手元にお届けする「H23事業計画」、「各講座要項」、またはホームページをご覧ください。

編集スタッフから

当センターは、「地域力」の醸成に資する社会教育指導者・担当者（市町村の社会教育担当者及び公民館職員等、県内の社会教育関係者）の人材養成機関として、今年度も様々な研修・講座を提供してきました。今年度は延べ1,458名のみなさまに参加していただきました。

平成20年度の中央教育審議会答申では「学習成果の活用」が強調されました。また、今号でも、清國祐二先生から社会教育の研修は「人の為に学ぶ」ところに特徴があることを示していただきました。みなさまの研修・講座における真の学習成果は、それをいかにそれぞれの地域や現場で生かすかにかかっています。

来年度もみなさまの積極的な参加をお待ちしています。

東部社会教育研修センター

〒691-0074　出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060　Fax.(0853)69-1380
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016　浜田市野原町1826-1 いわみ～る3F
Tel.(0855)24-9344　Fax.(0855)24-9345
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

この印刷物は古紙パルプ配分率70%以上の用紙を使用しています。